

お詫びと訂正

『京大古典プレミアム』

(初版第1刷)

本書におきまして、内容の一部に誤りがございました。訂正箇所をお知らせいたしますとともに、謹んでお詫び申し上げます。

教学社編集部

p. 35 8行目、p. 37 答 2・3行目

☐ 誤 ……なさっていたので、……先立たれ申し上げては、

☐ 正 ……なさり続けていて、……先立たれ申し上げたら、

p. 67 最終行、p. 70 答 2行目

☐ 誤 見せなさることよ。

☐ 正 見せなさるのだよ。

p. 105 後ろから8行目

☐ 誤 風でさえも、

☐ 正 人でさえも、

p. 110～113

別紙のとおり修正いたします。

p. 153 後ろから6行目、p. 155 (3) 答

☐ 誤 しみじみと思っているのか

☐ 正 つらく思っているのか

(以上)

2 「惜しき」にふん

▼「惜しき」といふ言葉も「今は惜しき」にて、「くやし」といふにかけ合ふべし……「かけ合ふべし」は「呼応しているはずである」の意。

宣長の解釈は「いま思へばくやし」で、以前願っていたことについて「今となつては悔やまれる」とするのに対し、「古き抄」の解釈では「願ひしはくやし」で、過去において願ったことを後悔しているだけとなる。「いま思へばくやし」でないと、原歌の「くやしかりける」と呼応しなくなり、この歌の「あふまでの命もがなと思ひし」ことを後悔している点を正しく理解していないことになると批判している。

……模範解答を示そう。

答



「古き抄」の「契りを結ぶまで」と期限を限定して命を願ったという解釈は、初二句が「あふまでと惜しき命を思ひしは」でないと成り立たない。これは助詞を正しく理解していないゆえの誤解である。また、「惜しき」という言葉も、願った時に「惜しんだ」のではなく、「今は惜しい」という意味でないと下の「くやし」と呼応せず、この歌の「あふまでの命もがなと思ひし」ことを悔やんでいる思いを正しく理解していないことになる。

読み取りが難しい部分だが、本文に沿って宣長の考えをまとめる。設問の指示通り、「批判」のニュアンスを出すこと。

問三

和歌の解釈の問題（「宣長の解釈を参考に」「わかりやすく」という注文がついている）

なかなか凝った歌なので、現代語訳も一筋縄ではない。段階を踏んで考えてみよう。

▼まずは、語句に即して直訳を試みよう。「聞くやいかに」は「聞いているか、どうか」、「うはの空なる風」

答



聞いているか、どうか。上空を吹く風でさえも、松の梢に吹きつけ音をさせる習性があると。

は「上空を吹く風」、「だに」は副助詞で「〜でさえも」、「まっくに音する」は「松の梢に吹きつけ音をさせる」、「ならひ」は「習性・世の常」である。以上をあわせると次のようになる。

▼ただ、この歌には「風に寄する恋（＝風に関係づけて恋の思いを表す）」という題がついているので、**「恋」を詠んだ内容**となるはずである。宣長の解釈によれば、次のようだという。

●「うはの空なる風」……「何の心も情けもなき風」（＝何の感情も思いやりもない風）
●「まっくに音する」……「人待つところにはおとづる」（＝人が待つ所には訪れる）

ここで、「うはの空なる風」を恋の歌にあうように理解しよう。「うはの空なる」は「あてにならない・根拠のない」の意なので、「うはの空なる風」は、「あてにならない浮気な人」だと考えられる。宣長の言う「何の感情も思いやりもない」をも取り込めば、次のようになる。

●**何の感情も思いやりもないあてにならない浮気な人でさえも、人が待つ所には訪れる**

「うはの空なる風」と「まっくに音する」を比喩の部分と考えて、「〜のように」でつなぐと、次のようになる。

答



聞いているか、どうか。上空を吹く風でさえも、松の梢に吹きつけ音をさせる習性があるように、何の感情も思いやりもないあてにならない浮気な人でさえも、人が待つ所には訪れるのが世の常であると。

波線部分を付け加え、比喩の意味を説明している。

▼次に、設問の「わかりやすく」に応じるために、もう一步内容に踏み込んだ解釈をしたい。ポイントは、「だに」である。「程度の軽いものを例に挙げて、程度の重いものを推測させる」という働きをする副助詞である。ここでは、**程度の重いもの（赤字）**を推測して、次のように理解する。

●何の感情も思いやりもないあてにならない浮気な人でさえも、人が待つ所には訪れる。まして、**あてにならない浮気でないあなた**なら、待っている私の所には訪れるはずだ。

ここから先は難しいが、ここである「あてになる浮気でない」人は、来ることを作者が待ち望んでいる恋人なのであろう。このように推測してみると、作者は「**私が待っているのにあなたは訪ねてくれない**」と恋しく思う男に恨み言を言っていることになる。あまり踏み込みすぎると大変であるがこの程度までは記述したい。

答



風の音を聞いていますか、どうですか。また上空を吹く風でさえも、松の梢に吹きつけ音をさせる習性があるように、あてにならない浮気な人でさえも、待っていれば訪れるのが世の常であると聞いていますか。まして多少なりとも情けがあるあなたなら、待っている私の所を訪ねようとするはずなのに、訪ねてきてくれないのですか。

宣長の「その風の音を聞くことをも兼ねたり」に従って冒頭に「風の音を」を加えた。また最後に「程度の重いもの」を示して作者の思いを加えた。

問四 内容説明の問題（「わかりやすく」という注文がついている）

設問の「契沖・宣長の批判」は、「契沖の批判」「宣長の批判」と分けて整理するといいたいだろう。契沖の批判は、「契沖云ふ」に続くカギ括弧の部分で述べられているが、二つの内容からなる。

- ① この発句、人を理りにいひ詰むるやうにて、女の歌にはことにいかにぞやあるなり。
- 「発句」は第一句のことで、「聞くやいかに」をさす。「いかにぞや」は「どんなものだろうか」の意で、

答



契沖は、「聞くやいかに」は相手を理詰めで詰問するようで女の歌としてよくないと批判し、「聞くや君」の方がよいとするある人の意見に賛同している。宣長も、「いかに」は言い過ぎだと契沖の意見に賛同している。

……模範解答は次のようになる。他の設問に比べれば易しい。

同じ意見であることを述べている。

▼宣長の批判は、「まことに」で始まる最後の一文に示されている。

「いかに（＝どうか）」という宮内卿の言葉づかいは、少し言い過ぎに聞こえるということで、宣長も契沖と同じ意見であることを述べている。

いると考えられる。

②『聞くや君』といはば、まさらむ、と申す人侍りき

「ふさわしくない・よくない」といった不満・批判を表す。「『聞くやいかに（＝聞いているか、どうか）』の第一句は、人を理詰めで詰問するようで、女の歌としてはふさわしくない」と批判しているのである。

「人」が言ったのは『聞くや君』といはば、まさらむの部分で、『聞くやいかに』を『聞くや君』（＝あなたは聞いているか）と詠んだならば、まさっているだろうの意味となる。この部分が契沖の考えと合致するとは明記されていないが、このように引用していることから、契沖がこの「人」の考えをよしとして